



# 社会教育便り

平成26年3月10日

文責 岡崎/威能

## 取組紹介

# 幡多の教育風土づくり

これまで西部教育事務所管内では「幡多はひとつ」という合言葉のもと、「幡多の人づくり・学校づくり・教育風土づくり」に努めてきました。

その取組のひとつに、一昨年（平成24年度）から4月23日の「子ども読書の日」を、幡多の教育風土として「大切な人へ本を贈る日」として根づかせていこうと考え、リーフレットを作成し発信してきました。

今回はその取組についてご紹介します。

## Q & A 4月23日「大切な人へ本を贈ろう」



Q1 4月23日の「大切な人へ本を贈ろう」って何ですか？



A 読書をすることは知識量の増加、思考力や表現力の向上、豊かな心の育成など、人間形成のうえで大きな役割を担っています。この取組は、そういった本の持つ力を子どもたちに伝えることはもとより、大切な人のことを考えながら本を選び、その「想い」を本に託し、メッセージとして贈るというねらいがあります。本を媒介とした親子の絆づくり、人と人との絆づくりとなるような、知的でロマンチックなイベントといったイメージを描いています。



Q2 わざわざ本を買わなくてはいけないんですか？

A 本を贈るために、わざわざ本屋さんに行って新しい本を買わなくても、学校や市町村の図書館にはたくさん本が並んでいます。きっと理想の本があるはず。図書館から借りてきて「ちょっとこの本読んでみたよ。」と渡すのも一つの方法です。親が実家のどこかに眠っている子どもの頃に読んだ思い出の本を贈るのも素敵なことではないでしょうか。



Q3 どのように広報活動を行っていますか？

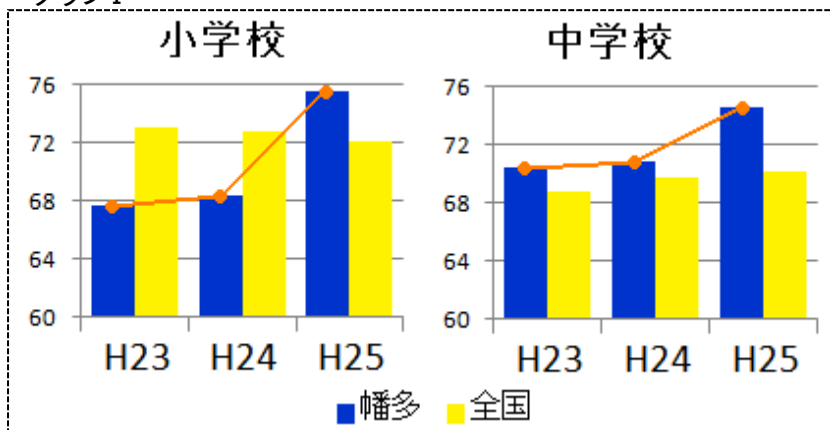
A これまでは、リーフレットを作成し、各市町村の公民館や図書館などに掲示していただいたり、幡多地域の情報紙にも掲載していただきました。また、PTAや婦人会など各社会教育団体を通じてPR活動をしてきました。教育風土は短期間で根づくものではありませんので、これからも地域のネットワークを活用しながら地道な広報活動をしていきたいと考えています。今後は毎月23日を「幡多っ子 読書の日」と定め、4月23日の「大切な人へ本を贈ろう」の取組を根づかせていきたいと考えています。

## 幡多管内の子どもたちの読書の状況



「読書は好きですか？」 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙より

グラフⅠ

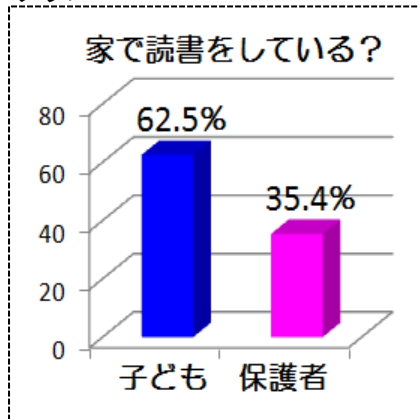


幡多管内の小中学生の読書に関する状況について、全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙の結果から見てみると、平成25年度調査では小学校も中学校ともに読書好きの子どもが全国に比べ多いことがうかがえます。(グラフⅠ参照)

「家で読書をしていますか？」 H25 幡P作成の「家庭のルールづくりチェックシート」より

昨年の6月に幡多地区小中学校PTA連合会が実施した、幡多管内の小中学校の児童生徒と保護者対象のアンケートでは、「家で読書をしている(保護者:子どもの前で読書をしている)」の質問で、**子ども 62.5%、保護者 35.4%** という結果でした。(グラフⅡ参照)

グラフⅡ



2つのアンケートの結果(グラフⅠ、Ⅱ)から、「読書好き」が7割以上で、6割以上の子どもたちが「家で読書をしている」という結果が出ています。しかし、「家で読書をしていない」「本を読まない」という残りの約4割近い子どもたちのことを考えたとき、やはり本を読む環境づくりが必要ではないかと考えます。本を読まなかった子どもが、あるちょっとしたきっかけで本を読むようになったという話も聞きます。そういったきっかけをどれだけ大人が提供するかが大事ではないかと考えます。

本は夢の宝箱！ 本を読むことで夢がいっぱい広がります。

毎月23日の「幡多っ子 読書の日」には、子どもたちが読書の喜びや楽しみを知り、本を読む習慣が身に付くようなきっかけづくりをしてみてもはいかがでしょうか。



「大切な人へ本を贈ろう」のリーフレットは西部教育事務所HPに掲載していますので、ダウンロードして自由にご活用ください。 <http://www.pref.kochi.lg.jp/uploaded/attachment/83984.pdf>

詳しくは、西部教育事務所 社会教育担当(岡崎・威能)  
TEL 0880-34-0866 までお問い合わせください。